

平成29年11月2日

豊田市議会議長 三 江 弘 海 様

新博物館機能検討特別委員会
委員長 近 藤 光 良



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 派遣期間 平成29年10月11日（水）～10月12日（木）
- 2 派遣先 10月11日（水）…山梨県笛吹市（山梨県立博物館）
及び内容 /山梨県立博物館の運営について

10月12日（木）…神奈川県相模原市（相模原市立博物館）
/相模原市立博物館の運営について
- 3 派遣委員 委員長 近藤 光良
副委員長 羽根田利明
委 員 岡田 耕一 日恵野雅俊 加藤 和男
山田 主成 木本 文也 中村 孝浩
北川 敏崇 榎屋小百合 日當 浩介
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 藤野晃浩、東郷公彦

視察報告書【1】

委員会名	新博物館機能検討特別委員会	委員名	近藤 光良
視察日時	平成 29 年 10 月 11 日(水)13 時～15 時		
視 察 先	山梨県立博物館		
視察内容	博物館の運営・取組について		
選定理由	当委員会の調査研究事項に対して、山梨県立博物館の使命とそれに対する具体的な取組内容、子ども向け事業の利用状況、愛称・シンボルマークの選定や反応、さらには県内、県外への P R 手段などについて参考とするため。		
本市議会の現状と課題	本市では平成 28 年度に新博物館基本構想が策定され、今年度は基本計画の策定に向けた 4 回の策定委員会の開催が予定されている。その中で、将来に渡って豊田市の誇りとなる「博物館」となるよう議会としても調査研究を行っている。		
視察概要	・ 博物館の機能（県民が自ら学び考える場＋山梨の個性の紹介＋文化の継承と発展） ・ 博物館のテーマ（山梨の自然と人をテーマとする歴史博物館） ・ 特色（自由見学ルート＋参加体験・交流型＋成長する博物館） ・ 運営（2 か月 1 回の展示替え、維持費年間 3 億円） ・ 展示内容（企画展・特別展＋山梨のシンボル展） ・ 体験内容（鑑賞型＋体験型＋イベント・工作・講座） ・ バリアフリー対応（平面＋展示交流員の説明＋音声ガイド） ・ 観光振興や地域との連携（鵜飼い、果樹産業、若手企業とのコラボ） ・ 収蔵庫の視察		
評価とその理由	・ 外観や自然に配慮し、施設全体が鑑賞の魅力を出している。 ・ 県立博物館ということもあり、常設展示は県内の特徴をかなり絞って展示している苦労が見られる。 ・ エントランスの地図情報の活用は大きな関心を抱かせる展示である。 ・ 天井を高くすることにより、ジオラマ等かなりの展示に耐えられるようにしている。これにより、迫力ある展示が可能となっている。 ・ 展示、収蔵庫、研究施設、無料開放施設などがコンパクトにまとまっており、動線計画も効率的に配置されておりわかりやすい。 ・ 増築余地も確保されており、今後の収蔵庫などの拡大も可能となっている。 ・ 小・中学生にもよく利用されており、教育施設との連携がしっかり行われている。 ・ 昭和の時代、戦争についても展示があり、高齢者を中心にした利用者の興味をひく風景が見られた。 ・ 立地が車でないと困難な位置にあり、日常的な利用が難しい。 ・ 資料収集には評価制度が必要 ・ バリアフリーへの対応がされていて、見やすい。		

本市議会に 反映できる こと	・施設を訪れること自体が楽しい施設となることが望まれる。外部環境も展示の一環と考えること及び明るい雰囲気施設の設置が必要。 ・展示スペースの天井を高くすることは展示内容の可能性を高めるために重要と考える。 ・動線の明確化により、施設がわかりやすい構造とする必要がある。 ・施設利用者を増やすには、教育施設との連携が重要と考える。また、回想法を意識した展示も必要である。 ・多人数の生徒たちが訪れても、他の訪問客に影響を与えないようなゆとりある施設構成が必要と考える。 ・公共交通の利便性を確保し、最寄り駅から容易に訪れることができる計画とすべき。 ・将来を考えた増築スペースの確保がぜひ必要と考える。 ・展示はバリアフリーを意識し、1階とすることが望ましい。
その他 (意見・課題 など)	・駐車場の整備は外観計画の一環とし、舗装のみでなく、植栽によるヒートアイランドの配慮した施設が望ましい。 ・食堂がないのは立地によるためであり、集客しやすい位置と、交通計画が必要。

【新博物館機能検討特別委員会調査研究事項】

- ①豊田市における博物館のあり方や役割、開館に向けた諸課題等
- ②何度も訪れたいくなる博物館の魅力づくり（機能）
- ③文化ゾーン全体での連携や中心市街地の活性化に向けた博物館の取組
- ④利用しやすい公共交通、駐車場など、交通アクセスの充実



外観風景



小学生の集団学習



無料コーナー



農作業のジオラマ



山梨県の衛星写真



外部にブドウ園も配置



博物館玄関にて



植樹のある駐車場

視察報告書【2】

委員会名	新博物館機能検討特別委員会	委員名	近藤 光良
視察日時	平成 29 年 10 月 12 日(木) 9 時 30 分～11 時 30 分		
視 察 先	神奈川県相模原市立博物館		
視察内容	博物館の運営・取組について		
選定理由	当委員会の調査研究事項に対して、相模原市立博物館の重点目標とその取組内容や情報発信、JAXA との連携内容とその方法について参考とするため。		
本市議会の現状と課題	本市では平成 28 年度に新博物館基本構想が策定され、今年度は基本計画の策定に向けた 4 回の策定委員会の開催が予定されている。その中で、将来に渡って豊田市の誇りとなる「博物館」となるよう議会としても調査研究を行っている。		
視察概要	・ 建設経緯（S53 要望書の提出～H7 開館） ・ 組織（博物館協議会 10 名、企画情報班 8 名、学芸班 7 名、市史編纂班 5 名） ・ 合併による他施設との連携体制 ・ 職員以外との連携（施設管理、プラネタリウム、非常勤職員、ボランティア 200 名以上） ・ 経費（年間 2 億 4 千万円） ・ 事業（企画展、講座、プラネタリウム、学習利用、広報・出版等） ・ H29 重点目標（常設展示のリニューアル、市域拡大への対応） ・ 主要事業（宇宙教育普及事業、星空観望会、プラネタリウム、民間活力の導入） ・ 市内外への PR（ホームページ、SNS、ポスター、タウン誌、ラジオのレギュラー枠） ・ JAXA との連携（企画展、講演会、各種事業の PR、相模原キャンパスの特別公開、オリジナルプラネタリウム番組）		
評価とその理由	・ 緑地の中にあり、落ち着いた雰囲気を出している。しかし、初めておとずれる場合の着目性に欠ける。 ・ 公共バスのルート内にあるようで、駅からのアクセスはしやすいが、本数が少ない。しかし、JAXA の施設が隣接しているため、位置はわかりやすい。 ・ JAXA による展示物等の協力が大きな特徴となっている。 ・ 太陽の黒点観察など実物、本物の持つ魅力と迫力は大切である。 ・ テーマ別に展示コーナーが分かれているが、やや動線が複雑になっていて、分かりにくい。 ・ 施設主催の講演会が多く企画されており、文化の中心施設としての機能を果たしている。 ・ 古墳発掘時の破片が手で触れるようになっており、また本物も展示されており、JAXA 以外の目玉となっている。 ・ 将来拡張の用地がないため、収集に限界がある。しかし、市域からすると、収集内容は今後それほど多くないと思われる。 ・ PR に努力している。 ・ 駐車場の規模が少し小さい。		

本市議会に 反映できる こと	・ 豊田市の特徴ある企業・組織との連携が必要。周辺公共施設との連携も必要。 ・ 建物周辺環境も展示として取り扱う。 ・ 公共バスルートの整備が重要。 ・ 展示はわかりやすい動線が望まれる。 ・ エントランスホールにはゆとりのあるスペースが必要。 ・ 常設展示にはストーリー性が必要である。 ・ 展示物はできるだけ本物にして興味を感じてもらう。 ・ 施設のメンテナンス費用は十分に考慮する必要がある。特に空調部分。 ・ 民間からの資料収集には収集に関するしっかりしたマニュアルが必要である。（資料が多くなりすぎる） ・ 民間ボランティアの協力が必要であり、そのための人材育成が重要となる。 ・ 集客と機能の効果発揮には小・中学校との連携が必要である。
その他 (意見・課題 など)	・ 科学館的な要素が大きく、地域の歴史についての展示が少ない。町の歴史が知れる展示が必要と感じた。 ・ 講演会による集客も集客策として有効である。 ・ ここの飲食店が閉鎖しており、日常的集客性の難しさを感じる。 ・ 合併地域の施設と收集整理に苦労している。

【新博物館機能検討特別委員会調査研究事項】

- ① 豊田市における博物館のあり方や役割、開館に向けた諸課題等
- ② 何度も訪れたいくなる博物館の魅力づくり（機能）
- ③ 文化ゾーン全体での連携や中心市街地の活性化に向けた博物館の取組
- ④ 利用しやすい公共交通、駐車場など、交通アクセスの充実



玄関のゾウの化石



勝坂の発掘土器



自然のジオラマ



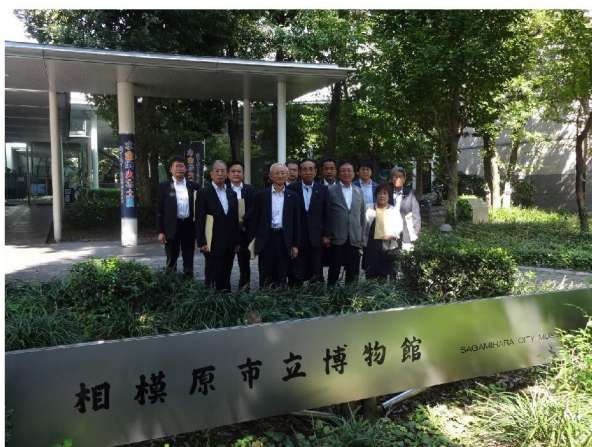
屋外も自然の展示の一環



プラネタリウム



現時点の太陽の黒点観察



エントランス前にて